

(講座) 環境薬科学

(研究室) 衛生化学

(氏名) 原武 衛

(職名) 准教授

### 【研究テーマ】

1. 必須微量元素の体内動態と機能の解析

### 【論文発表】

#### A 欧文

##### (A-a) 原著論文

1. M. Haratake, S. Hidaka, M. Ono and M. Nakayama: Preparation of an ion-exchangeable polymer bead wrapped with bilayer membrane structures for high performance liquid chromatography. *Anal. Chim. Acta* **589**, 76-83 (2007) (IF 2.894)
2. M. Ono, Y. Maya, M. Haratake, K. Ito, H. Mori, M. Nakayama: Aurones serve as probes of  $\beta$ -amyloid plaques in Alzheimer's disease. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **361**, 116-121 (2007) (IF 2.855)
3. M. Ono, Y. Maya, M. Haratake and M. Nakayama: Synthesis and characterization of styrylchromone derivatives as  $\beta$ -amyloid imaging agents. *Bioorg. Med. Chem.* **15**, 444-450 (2007) (IF 2.624)
4. M. Ono, M. Hori, M. Haratake, T. Tomiyama, H. Mori and M. Nakayama: Structure-activity relationship of chalcones and related derivatives as ligands for detecting of  $\beta$ -amyloid plaques in the brain. *Bioorg. Med. Chem.* **15**, 6388-6396 (2007) (IF 2.624)
5. M. Ono, M. Haratake, H. Mori and M. Nakayama: Novel chalcones as probes for in vivo imaging of  $\beta$ -amyloid plaques in Alzheimer's brains. *Bioorg. Med. Chem.* **15**, 6802-6809 (2007) (IF 2.624)
6. M. Haratake, J. Takahashi, M. Ono and M. Nakayama: An assessment of Niboshi (a processed Japanese anchovy) as an effective food source of selenium. *J. Health Sci.* **53**, 457-463 (2007) (IF 0.793)

### 【学会発表】

#### A 国際学会

##### (A-b) 一般講演

1. M. Ono, M. Haratake and M. Nakayama: Novel chalcones as probes for in vivo detecting of  $\beta$ -amyloid plaques in Alzheimer's disease, Society of Nuclear Medicine 54<sup>th</sup> Annual Meeting, Jun. 2007 (Washington D.C.)
2. M. Haratake, S. Matsumoto, M. Ono and M. Nakayama: Nanoparticulate glutathione peroxidase mimics based on selenocystine-pullulan conjugates, International Symposium on Metallomics 2007, Nov. 28-Dec. 1, 2007 (Nagoya, Japan)
3. M. Hongoh, M. Haratake, K. Fujimoto, R. Hirakawa, M. Ono and M. Nakayama: A study of selenium export mechanism from red blood cells, International Symposium on

## B 国内学会

### (B-b) 一般講演

1. 畠中 瑛介, 原武 衛, 小野 正博, 明石 真言, 中山 守雄: 新規 *N*-メチルグルカミン型樹脂を用いる  $^{68}\text{Ge}/^{68}\text{Ga}$  ジェネレータの開発, 日本薬学会第 127 年会, 2007 年 3 月(富山)
2. 真矢 啓史, 小野 正博, 原武 衛, 中山 守雄: 脳内アミロイド! 蛋白の検出を目的とした放射性ヨウ素標識オーロン誘導体の開発, 日本薬学会第 127 年会, 2007 年 3 月(富山)
3. 祖母井 香織, 小野 正博, 西田 教行, 片峰 茂, 原武 衛, 中山 守雄: プリオンを認識するアミロイドイメージングプローブとしてのベンゾフラン誘導体の評価, 日本薬学会第 127 年会, 2007 年 3 月(富山)
4. 堀 みゆき, 小野 正博, 原武 衛, 中山 守雄: カルコンを基本骨格とするアミロイドイメージングプローブの開発, 日本薬学会第 127 年会, 2007 年 3 月(富山)
5. 渡部 瑠美, 小野 正博, 河島 秀和, 佐治 英郎, 原武 衛, 中山 守雄: アルツハイマー病の診断を目的とした新規 PET 用アミロイドイメージングプローブの開発: カルコン誘導体の合成と評価, 日本薬学会第 127 年会, 2007 年 3 月(富山)
6. 原武 衛, 宮内 みほ子, 小野 正博, 中山 守雄: 非天然型セレン供給源ペニシラミンセレノトリスルフィドの血中代謝様式の検討, 第 17 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム, 2007 年 6 月(京都)
7. 畠中 瑛介, 原武 衛, 小野 正博, 五十嵐 隆, 中山 守雄: *N*-メチルグルカミン型樹脂を用いる  $^{68}\text{Ge}/^{68}\text{Ga}$  ジェネレータの開発と応用, 第 47 回日本核医学会学術総会, 2007 年 11 月(仙台)
8. 真矢 啓史, 小野 正博, 原武 衛, 中山 守雄: アルツハイマー病診断用アミロイドイメージングプローブの開発-オーロン誘導体の合成と評価, 第 47 回日本核医学会学術総会, 2007 年 11 月(仙台)
9. 渡部 瑠美, 小野 正博, 河島 秀和, 佐治 英郎, 原武 衛, 中山 守雄: カルコンを基本骨格とする新規 PET 用アミロイドイメージングプローブの開発, 第 47 回日本核医学会学術総会, 2007 年 11 月(仙台)
10. 畠中 瑛介, 原武 衛, 小野 正博, 五十嵐 隆, 中山 守雄: *N*-メチルグルカミン型樹脂を用いる  $^{68}\text{Ge}/^{68}\text{Ga}$  ジェネレータの開発と PET 用  $^{68}\text{Ga}$  標識薬剤調製への適用, 第 24 回日本薬学会九州支部大会, 2007 年 12 月(福岡)
11. 真矢 啓史, 小野 正博, 原武 衛, 中山 守雄: アルツハイマー病の早期診断を目的とした新規 SPECT 用アミロイドイメージングプローブの開発, 第 24 回日本薬学会九州支部大会, 2007 年 12 月(福岡)
12. 祖母井 香織, 小野 正博, 新 竜一郎, 西田 教行, 片峰 茂, 河島 秀和, 原武 衛, 中山 守雄: プリオン蛋白質結合性化合物の探索と分子イメージングへの応用, 第 24 回日本薬学会九州支部大会, 2007 年 12 月(福岡)
13. 渡部 瑠美, 小野 正博, 河島 秀和, 佐治 英郎, 原武 衛, 中山 守雄: アルツハイマ

一病の早期診断を目的とした新規 SPECT 用アミロイドイメージングプローブの開発,  
第 24 回日本薬学会九州支部大会, 2007 年 12 月(福岡)

**【過去の研究業績総計】**

原著論文 (欧文)	34 編	(邦文)	2 編
総説 (欧文)	1 編	(邦文)	0 編
著書 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
紀要 (欧文)	0 編	(邦文)	0 編
特許	1 件		